

教員名	刑部 育子 (GYOBU Ikuko)
所 属	生活科学部人間生活学科発達臨床心理学講座
学 位	
職 名	助教授
URL/E-mail	gyobu.ikuko@ocha.ac.jp

◆研究キーワード

集団における子どもの発達 / 保育デザイン / アートと学び

◆主要業績

総数 (9) 件

- ・刑部育子 (2006) 文化的起源としての共感性. 幼児の教育, Vol. 105 (1), フレーベル館, pp. 32-40.
- ・刑部育子 (2006) 動くことと見ることの同時性. 日本デザイン学会 Vol.13 pp. 36-39.
- ・岩田恵子・刑部育子 (2005) 遊びの意義—子どもの発達と遊び方—.小児科 vol. 46, No. 10, pp. 1774-1778.

◆研究内容

(1) 乳児の共感性の発達研究を進めました。2005年9月にはスペインで行われた「文化と活動研究の国際学術会議2005」に参加し、共感性は人間の文化や学習の起源として重要であることを発表しました(日本学術振興会・国際学会等派遣事業による)。

(2) また、「実践のデザイン過程を記述するフィールド心理学における方法論の開発」研究を実施中です。デザインについては台湾国立交通大学と公立ほこだて未来大学において行われた国際ワークショップ「シナリオ・エクスチェンジプロジェクト」に参加し、デザイン手法の開発を進めています。(3) このようなデザインの手法の応用として、お茶の水女子大学附属いずみナーサリーの「メッセージブック(パンフレット)」をいずみナーサリーの保育者と武蔵野美術大学の学生さんとともに共同製作、デザインしました。(4) さらに、保育フィールドに有効な観察記録ツール開発を開始しました。

◆教育内容

平成17年度は以下の通り。「基礎ゼミ(古典)」は「教育の過程」(ブルーナー著)の購読、「心理臨床実習」では教育現場におけるビデオ分析手法の演習、「人間関係学」では子ども同士の関係性について心理学的視点から講義、「児童学概論」では「子どもと絵本」をテーマとした講義、「保育臨床学」は保育に関わる様々な問題を検討、「発達臨床基礎論Ⅰ」では臨床発達心理学を概観、「発達過程論」では文化心理学的観点から発達過程について考察、「保育臨床講義講読」はケア論をテーマとした購読と保育事例の検討、「保育臨床学実習」は附属幼稚園、附属いずみナーサリーに観察、記録の検討、「発達臨床学特別演習」は幼・小・中学校などでのインターンシップ、「発達臨床論文演習Ⅰ・Ⅱ」は卒論指導。平成17年度に提出された卒論のタイトルは「異なるものがともに生きる空間—子どもと高齢者が織り成す世界の検討」、「誰をケアする子育て支援」「保育現場における子どもの移行対象」、「特別支援教育における児童の個別に応じた教材とその実施」です。

◆特許

- ・保育観察記録ツールの実用化

◆将来の研究計画・研究の展望

- ・アートにおける学び（附属小学校授業「アート」と連携した実践的研究および幼稚園の表現活動の検討）
- ・保育観察記録ツールの開発

◆受験生等へのメッセージ

お茶の水女子大学敷地内には、日本で最も歴史ある附属幼稚園があります。また、国立大学の中で附属校として初めての保育所、いずみナーサリーが大学と同じ敷地内に設置されました。乳幼児期の教育プログラムを開発するため、大学と幼稚園・保育所が連携した研究プロジェクトが進行中です。このような学習環境が備わる中で実践的にそして専門的な保育・子ども理解・発達を学ぶことができます。